

国際交流センターだより vol.14

海外リサーチ・クラークシップ壮行会を開催しました（12月21日）

2024年1月4日から3月5日まで、リサーチ・クラークシップのため海外の研究室に滞在中の医学科2年生8名が、2023年12月21日に開催された壮行会で、留学への意気込みを述べました。

*リサーチ・クラークシップとは、医学科2年生を対象としたプログラムで、早期に国内外の研究施設での研究に参加することにより、リサーチマインドを育てることを目的としています。



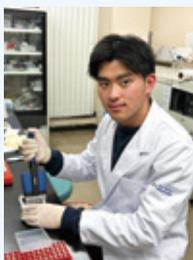
医学科2年 平岡 崇秀

私はベルギーのコルトレイクにある、Laboratory for thrombosis research, KU Leuven Campus Kulak Kortrijkで2ヶ月間実習をさせていただきます。

この研究室は血液に関する研究を行う生化学の研究室で、主に von Willebrand disease (VWD) や Thrombotic thrombocytopenic purpura (TTP) といった病気についての研究をされています。

自分が研究室に行った際には、ADAMTS13 と TTP 患者さんの自己抗体が結合した免疫複合体を検出する方法を確立し、その検出量と初発時の臨床経過との関連解析を行って臨床症状・予後に及ぼす影響を推測することを目的として尽力します。

また、奈良県立医科大学では輸血部に所属させていただいており、事前学習として ELISA を用いて ADAMTS13 の活性を測定したり、ラボミーティングに参加させていただいたりしていました。



医学科2年 伊藤 晴加

私はイギリスのリーズ大学にある Astbury Centre for Structural Molecular Biology で2か月間実習を行わせていただきます。派遣先の Radford 教授の研究室では、最先端の機器を用いて蛋白質の構造や凝集のメカニズムについて調べ、アミロイド病治療のヒントを得るための研究が行われています。私は現地で蛋白質のフォールディング過程を見る実験等を行う予定です。そのための準備として、本学の未来基礎医学では先生方の手厚い指導のもと、目的蛋白質を作製し、蛍光分光光度計等の物理化学的測定機器を用いて蛋白質の安定性評価を行いました。この度ただけた貴重な機会を十分に活用し、派遣先では予定している研究だけにとどまらず、多くのことを吸収したいと思っております。



MESSAGE

生理学第二 教授 堀江 恭二

壮行会で学生さんのお話を聞いて、ひとりひとりが明確な目標を掲げて準備を進めてきたことが伝わり、実に頼もしく感じました。また、海外派遣に際して、事前研修でお世話になった先生方や事務の方々のみならず、未来への飛躍基金でご支援くださった多くの方々への感謝の気持ちを大切にしていることも伝わってきました。貴重な機会を活かして、大いに学んでください。ひと回り大きくなって帰ってくることを楽しみにしています。



未来基礎医学 准教授 森 英一郎

コロナの感染拡大のために中断していた海外でのリサクラが、今年度から再開となります。コロナ感染拡大によって、医学研究の重要度が社会的に再認識されたのではないのでしょうか。皆様は今、学内の選抜過程と事前研修などの準備期間を経て、渡航先での研究活動に胸を躍らせていることかと思えます。奈良医大のみならず、日本人の代表としての意識を持って、頑張ってきて下さることを期待します。海外の研究室での経験を、リサクラ期間を終えて戻ってきてからの活動に、是非とも活かしてってください。



2023年度 海外リサーチ・クラークシップ留学先（7施設8名）

University of Texas Health San Antonio (USA)	大平 雅也	National Taiwan University Hospital (Taiwan)	有野 公人
University of Alberta (Canada)	小西 菜々子	National University of Singapore (Singapore)	森田 大智
University of Leeds (UK)	伊藤 晴加	KU Leuven Campus Kulak Kortrijk (Belgium)	佐久間 隼人
University of Michigan Medical School (USA)	和出 陽南		平岡 崇秀

「第9回 英語で学ぶ医学・看護学セミナー」を開催しました（医学科2年生対象・9月26日）

生理学第二 教授
堀江 恭二



橋元先生は、米国クリーブランド・クリニックで、肝移植部門のディレクターとして多大な業績をあげておられます。今回、はじめて本学をご訪問くださり、肝移植の歴史と将来の方向性についてお話いただきました。学生からも積極的に英語で質問がなされ、ご講演後に橋元先生も感心しておられました。橋元先生が強い信念の元にこの分野を開拓されている様子は、学生の皆さんがキャリアパスを描く上でも参考になったことと思います。

クリーブランドクリニック（アメリカ）
橋元 宏次 先生



I want to express my gratitude for the opportunity to speak at Nara Medical University. It was an honor to address your medical students and share insights on liver transplantation that I have engaged in for my entire career. I am also grateful for the warm welcome and hospitality extended to me during my visit. Your team's professionalism and attention to detail were greatly appreciated.

The engagement and enthusiasm of your students were truly remarkable. Their thoughtful questions and discussions reflected their dedication to the field of medicine. I believe that these young minds have the potential to make significant contributions to the medical community. I will be excited to witness how your medical students grow and shine in the future.

Finally, I look forward to future collaboration or interaction with Nara Medical University. Please convey my regards to the faculty and students. Wishing Nara Medical University continued success in nurturing the next generation of medical professionals.



会場の様子



学生からの質問にも、丁寧にお答えいただきました



「第6回 外国人留学生との交流会」を開催しました（12月5日）

外国人留学生との交流会(Global Hour)を、NOFIS (NMU Organization For International Students & doctors) との共催で開催しました。

参加の留学生は、整形外科のドクター5名（タイ1名、フィリピン1名、中国3名）、放射線科のドクター1名（フィリピン）、学生6名（ドイツ5名、メキシコ1名）でした。今回は、本学医学科5年生が「What is Resilience?」、ドイツとメキシコの留学生たちが「Bitcoin」、「Göttingen Christmas Market」、「Mexico」というテーマでそれぞれプレゼンを行いました。どのプレゼンも興味深く、笑いあいの和やかな雰囲気の中、交流を深めることができました。



令和5年度 第2回若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定（9月26日）

令和5年度第2回 若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、右記の3名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、10万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所属(科目)	職名	氏名
腎臓内科学	医員	西本 雅俊
麻酔科学	診療助手	大井 彩子
放射線診断・IVR学	医員	中野 亮汰